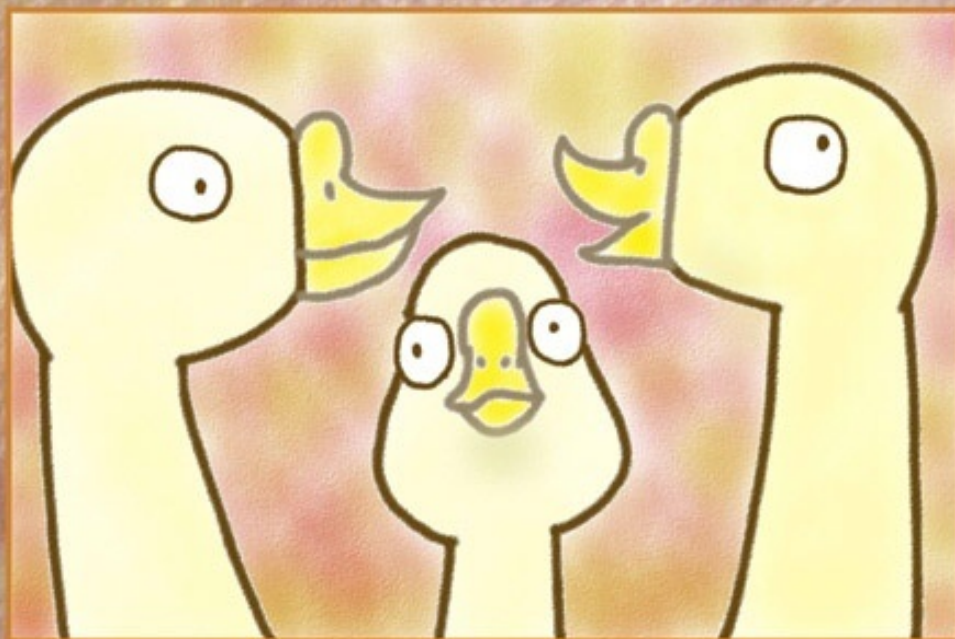


おかしな

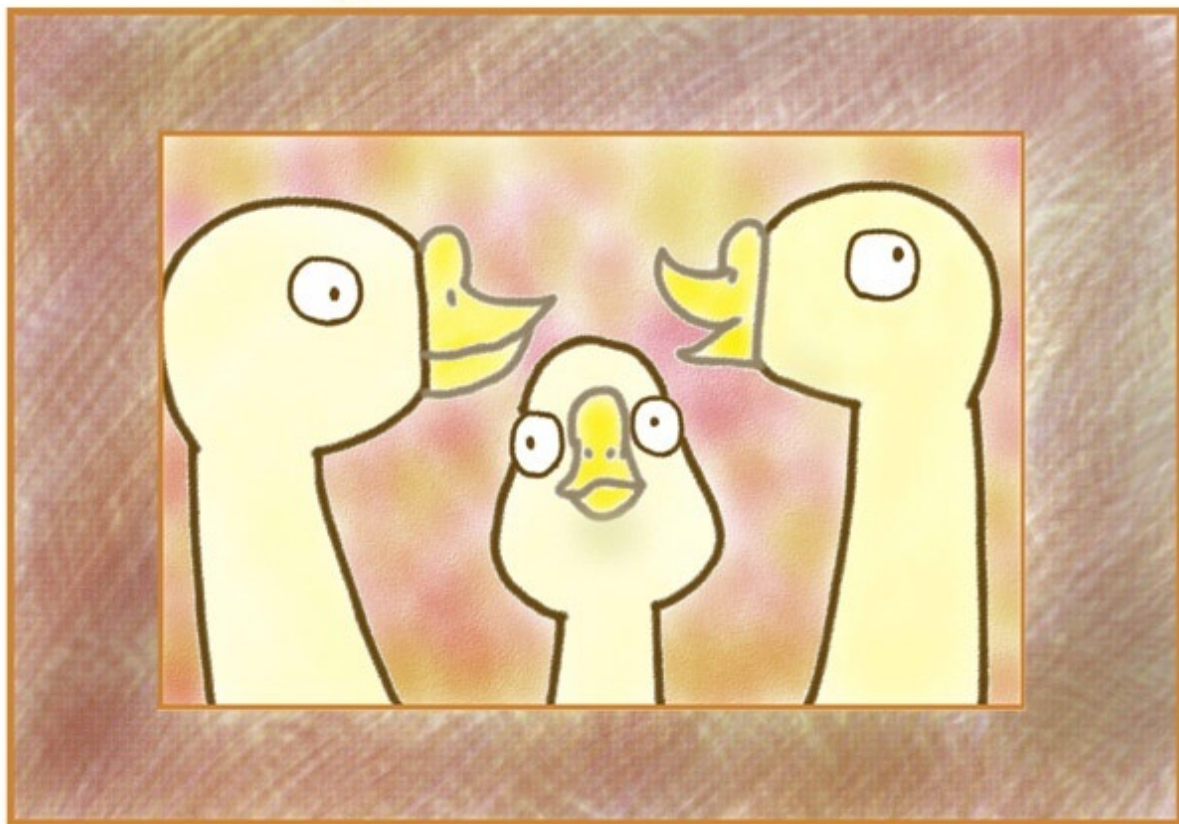
3羽の

がちょう



きりえちいこ

おかしな  
3羽の  
がちょう



きりえゆいこ

あるところに一人の魔女がおりました。



魔女の仕事はいろんな人がもちこんでくる  
なやみや苦しみをとってやることです。

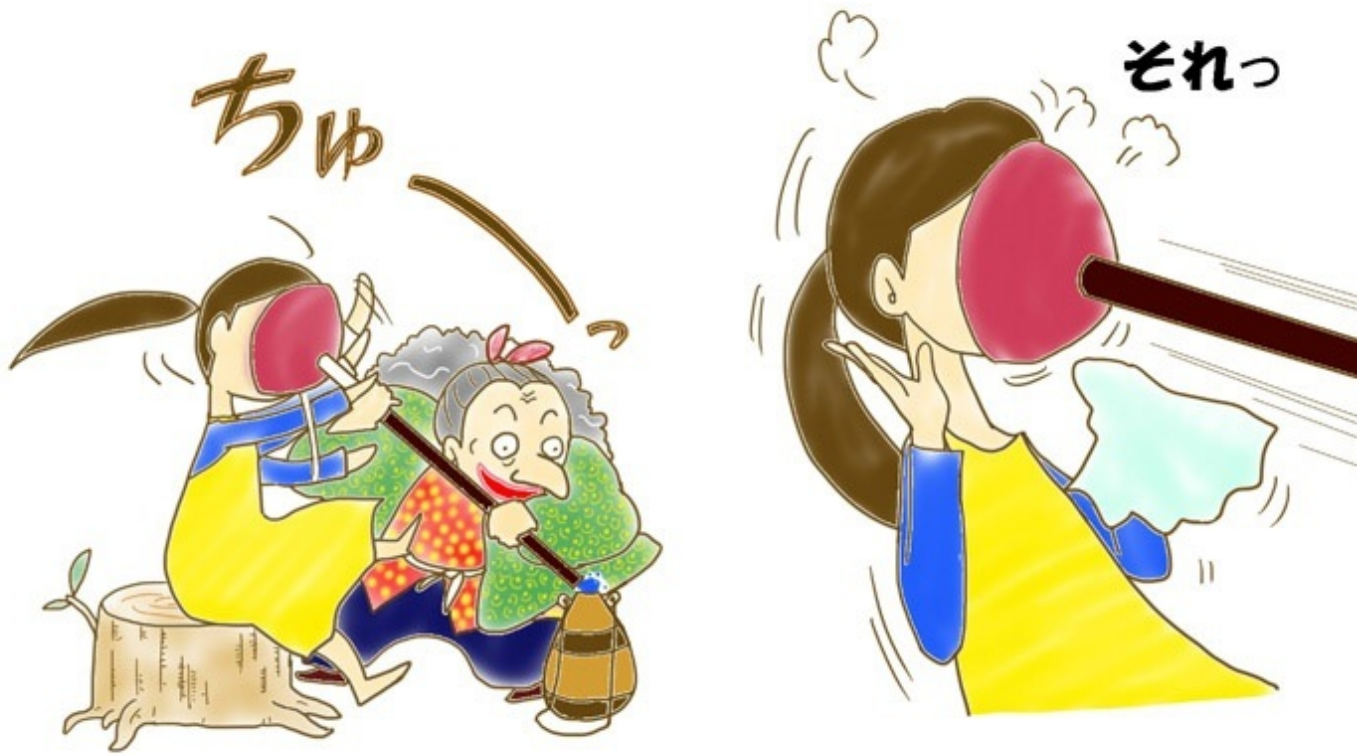
あの人は私を  
おいていっちゃったの！  
私かなしくて…



つまらない  
なやみだねえ。



そんなのすぐに  
わすれちゃうよ。



わあ! なんだか  
気持ちがすっきり!!





ところが使い魔の猫は  
100年に一度の有給休暇をとって  
マイアミにあそびにいっているのです

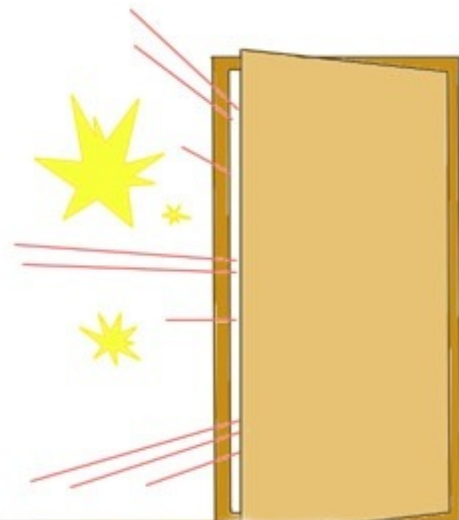


ひとが一生懸命  
はたらいてるのに

なんてなまいき  
なんだ!!



さてどうやって捨て場所まで  
もっていこうか 魔女がなやんで  
いた時に



食料品庫からおおきな音が!

ドアをあけると3羽のがちょうが  
中にはいりこんでいました



なにやってんの！ おまえたち！！

この大喰らいのがちょうども！  
あたしのだいじな食料品庫が！



そうだ！！



ちょっとおつかいに  
いっておくれでないかい

お前たち たーんと食べたから  
まんぞくだらう



さあさあ これもって  
いっておいで

そういうわけで  
3羽のがちょうは でかけることになりました



ああ よかった  
いよいよ われるかと  
おもったよ

おつかい ですんだら  
やすいもんだ



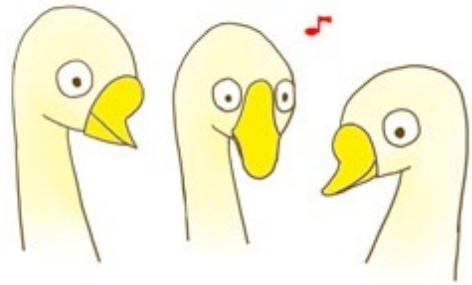
けちな魔女め  
いつも ろくなエサをくれないのに  
食品庫には ごちそうたくさん  
あったなあ



そして3羽はぺちやぺちやと  
おしゃべりしながらすすんでいきました



やがて



3羽は 魔女のゴミすてばに  
とうちゃくしました





「なるべく地面からとおいへ 穴の真ん中になげこむんだよ」



ところが がちょうたち

力があまって

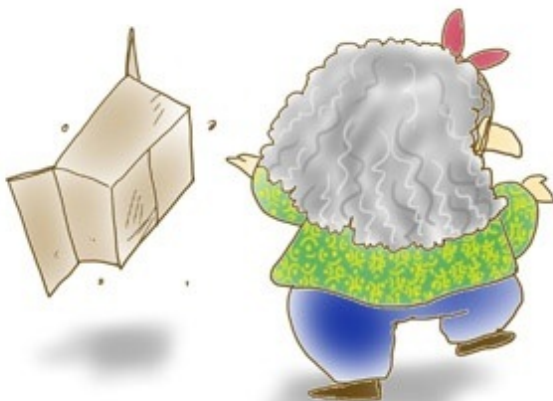
一緒にあなのなかへ

あいつらを「魔法のいぶくろ」にしたのは  
失敗だったかねえ  
ラジオや花火 ナベまでくっちまった



生ごみを 食わすのに すごく便利だったんだが  
あんなに 大ぐらいになるとはね

帰ってきたら 羽をむしって  
テリヤキにしちまおう



おっこちて  
しまいました!



あなの底はまっくらで  
おかしなにおいがしました

魔女のごみは？

ああ びっくりした

どっかへ いっちゃったよ



じゃあ 飛んであなからにげよう

飛ぼうとした3羽の前に  
おおきな なにかが あられました

わたしはすてられた あおいきもち  
いま ときはなれた



わあ！これ  
ビンの中身が  
でちゃったんだ！

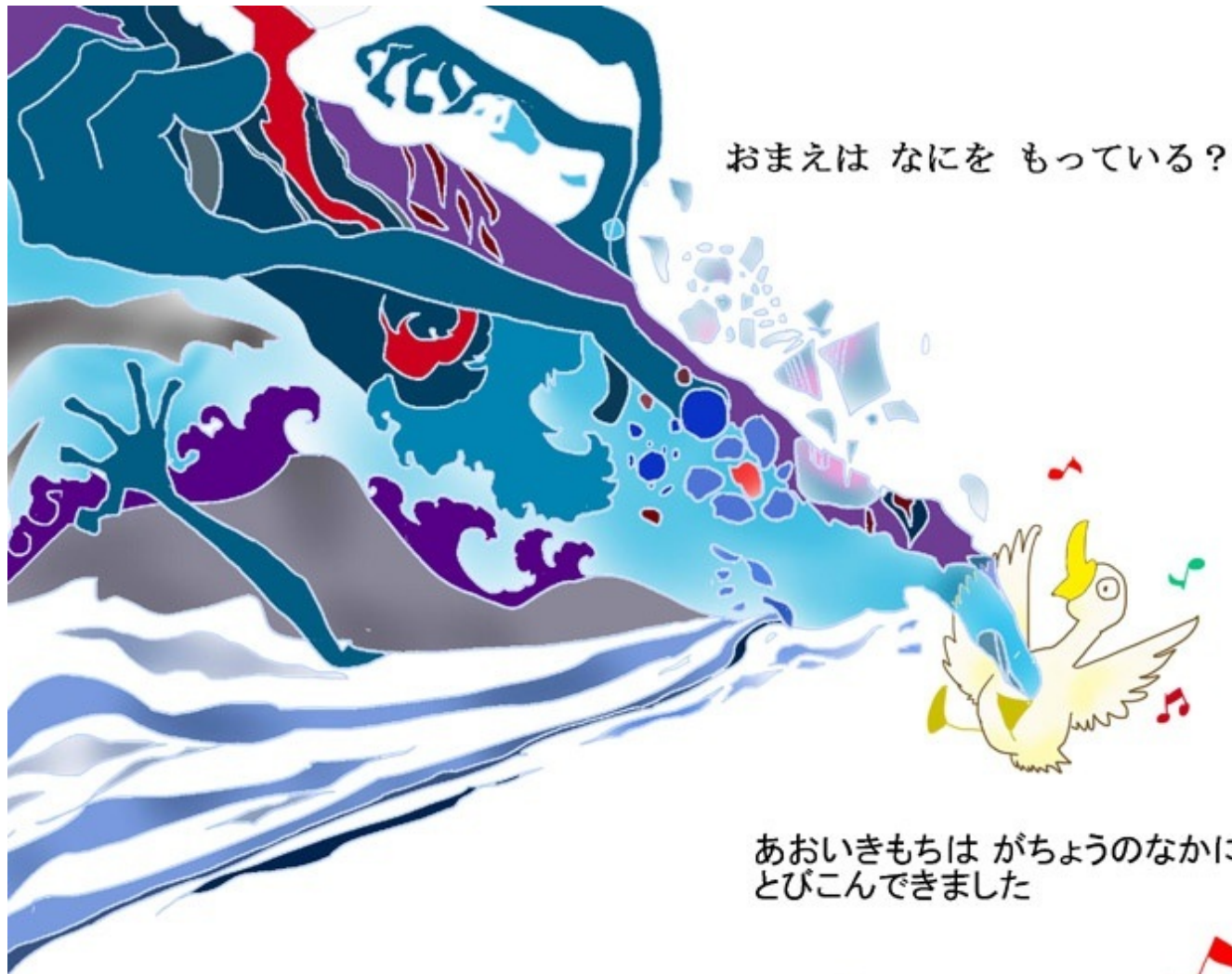
わわわわ  
どうしよう



こいや  
これは…

たのしいの？





おまえは なにを もっている？

あおいきもちが がちょうのなかに  
とびこんできました

がちょうの おなかのなかには  
魔女のふるいラジオがありました



魔女が一日の終わりに  
ゆっくりくつろぐために聞く

魔女の好きな ふるい曲ばかり  
ながし続けるラジオでした



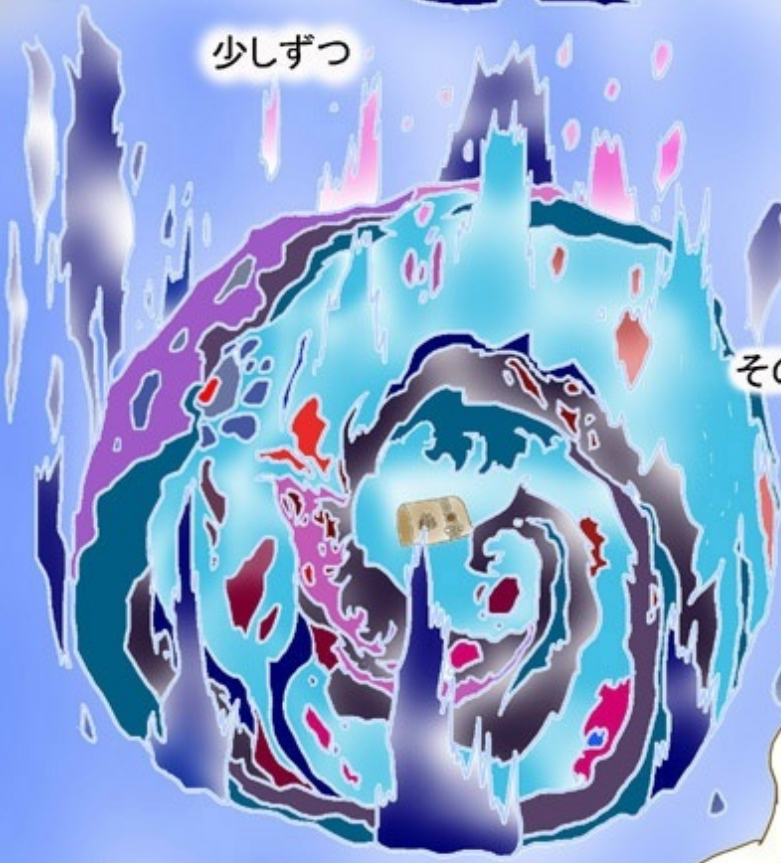
あおいきもちは ラジオのまわりを  
ぐるぐる まわり



少しずつ

少しずつ

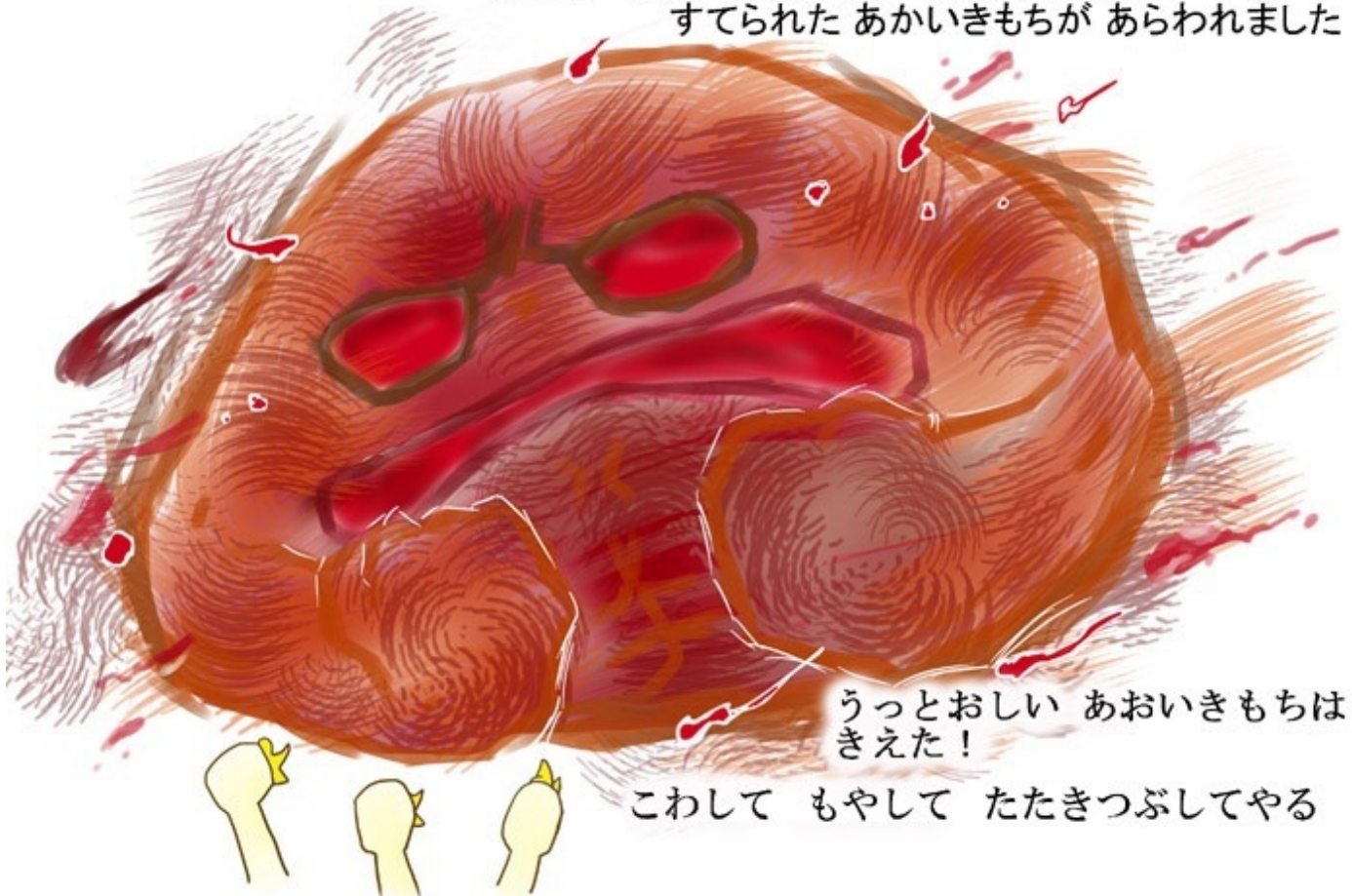
その曲を聞きながら  
おだやかに なって



やがて しずかに  
なりました



けれど つぎにものすごい地鳴りがおこり  
すてられた あかいきもちが あらわれました



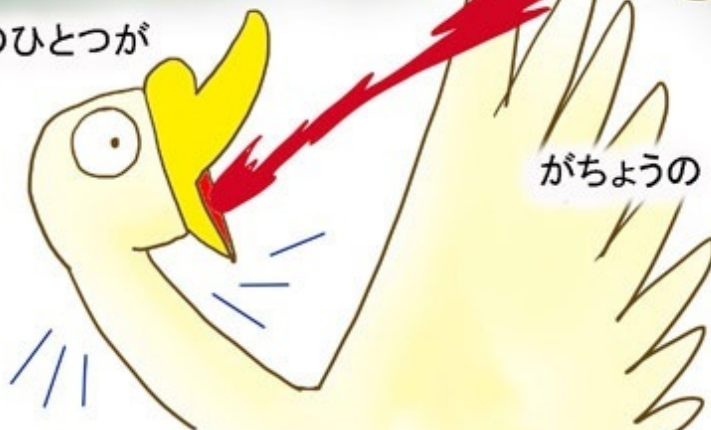
うっとおしい あおいきもち  
はきえた！

こわして もやして たたきつぶしてやる

あかいきもちは とどろくような声でさけぶと  
火花をまきちらしました



火花のひとつが



がちょうのくちの中に！！



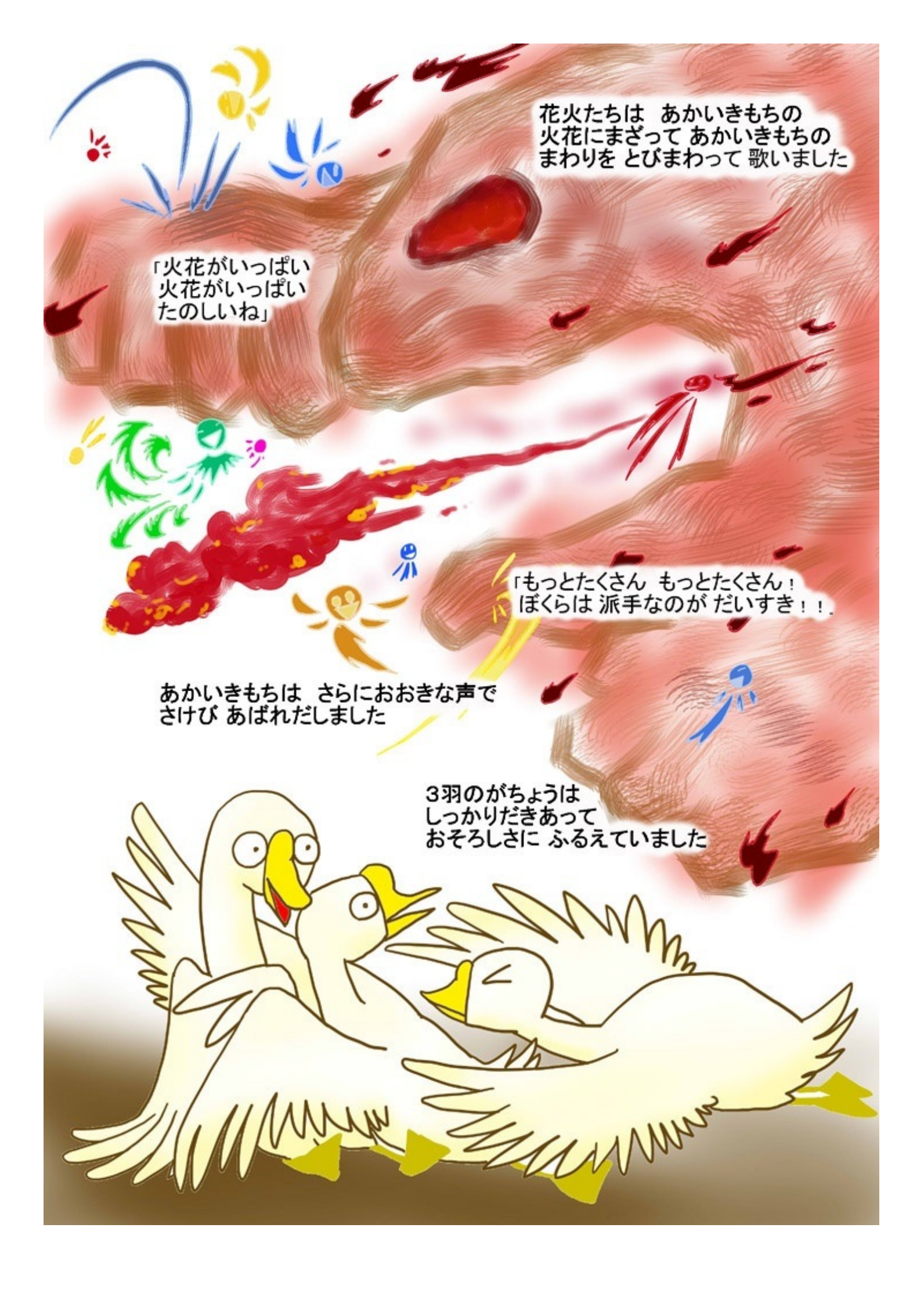
すると がちょうのくちから 花火がとびだしました！

がちょうのおなかには  
魔女の花火が  
はいていたのです

わーい！  
外だ！ 外だ！！

いつも 夏だけしか  
でられないのは  
つまんない！

きょうは なんの  
おまつりー？



花火たちは あかいきもちの  
火花にまざって あかいきもちの  
まわりをとびまわって歌いました

「火花がいっぱい  
火花がいっぱい  
たのしいね」

「もっとたくさん もっとたくさん！  
ぼくらは派手なのがだいすき！！」

あかいきもちは さらにおおきな声で  
さけび あばれだしました

3羽のがちょうは  
しっかりだきあって  
おそろしさにふるえていました

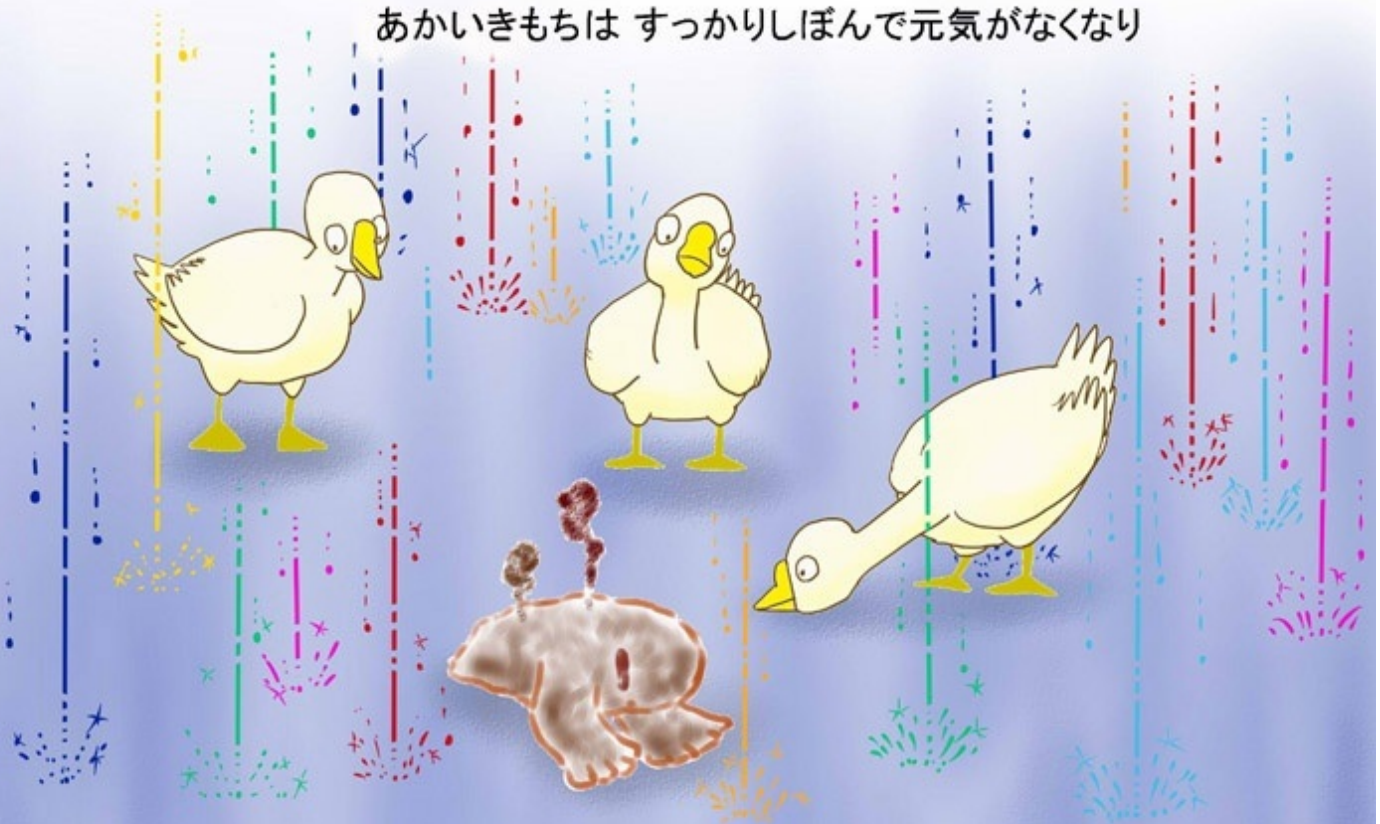


でも その音も いつのまにか 小さくなり



がちょうたちが そっと 目を開けると

あかいきもち は すっかりしぼんで元気がなくなり



ちいさい線香花火が ちりちり 落ちてくるだけでした

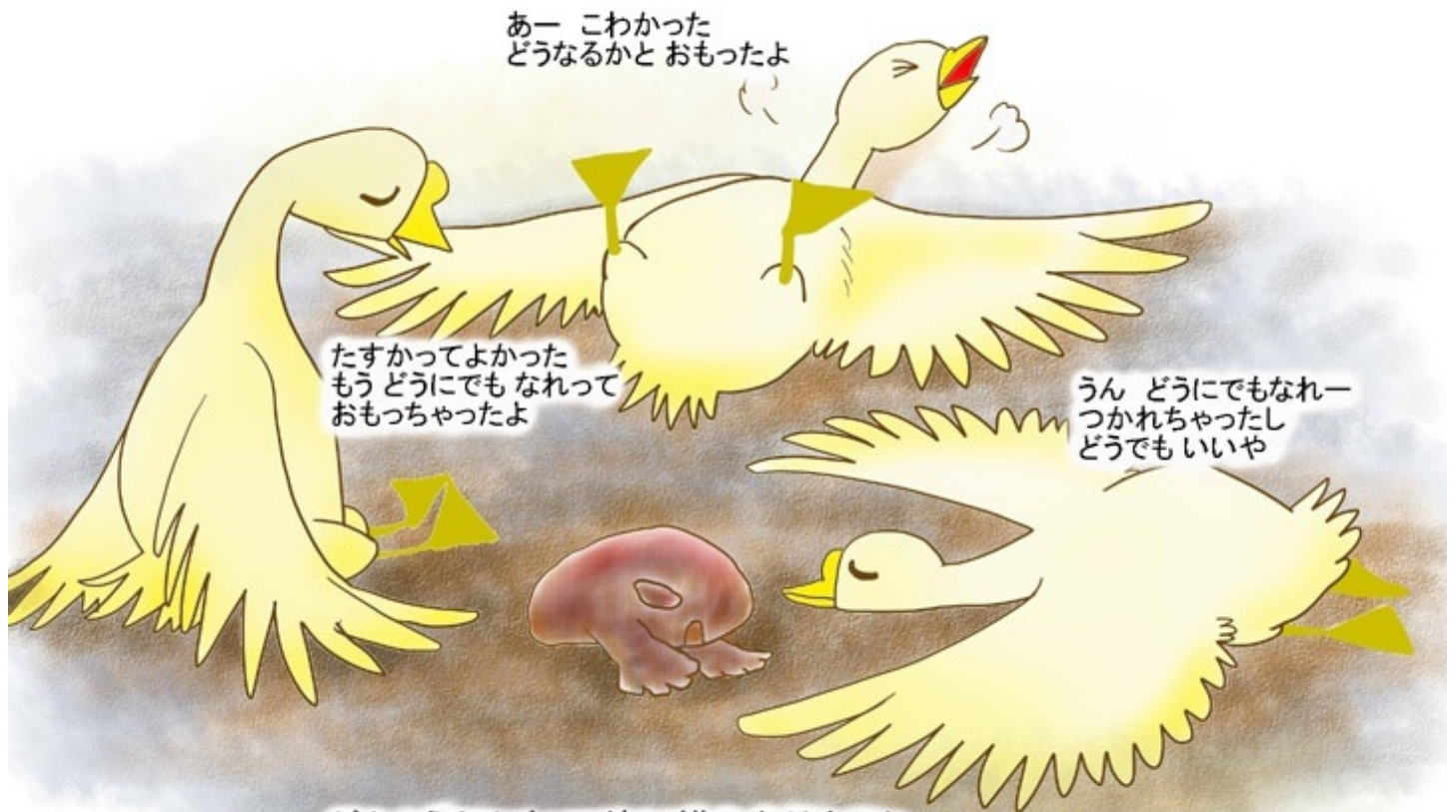


もう つかれた どうでもいい



あかいきもちは そういって  
じめんにころがってしまいました

がちょうたちも じめんに  
すわりこみました



あー こわかった  
どうなるかとおもったよ

たすかってよかった  
もう どうにでも なれって  
おもっちゃったよ

うん どうにでもなれー  
つかれちゃったし  
どうでもいいや

がちょうたちも 一緒に横になりました  
でも それは ほんとは 疲れたせいでは なかったのです

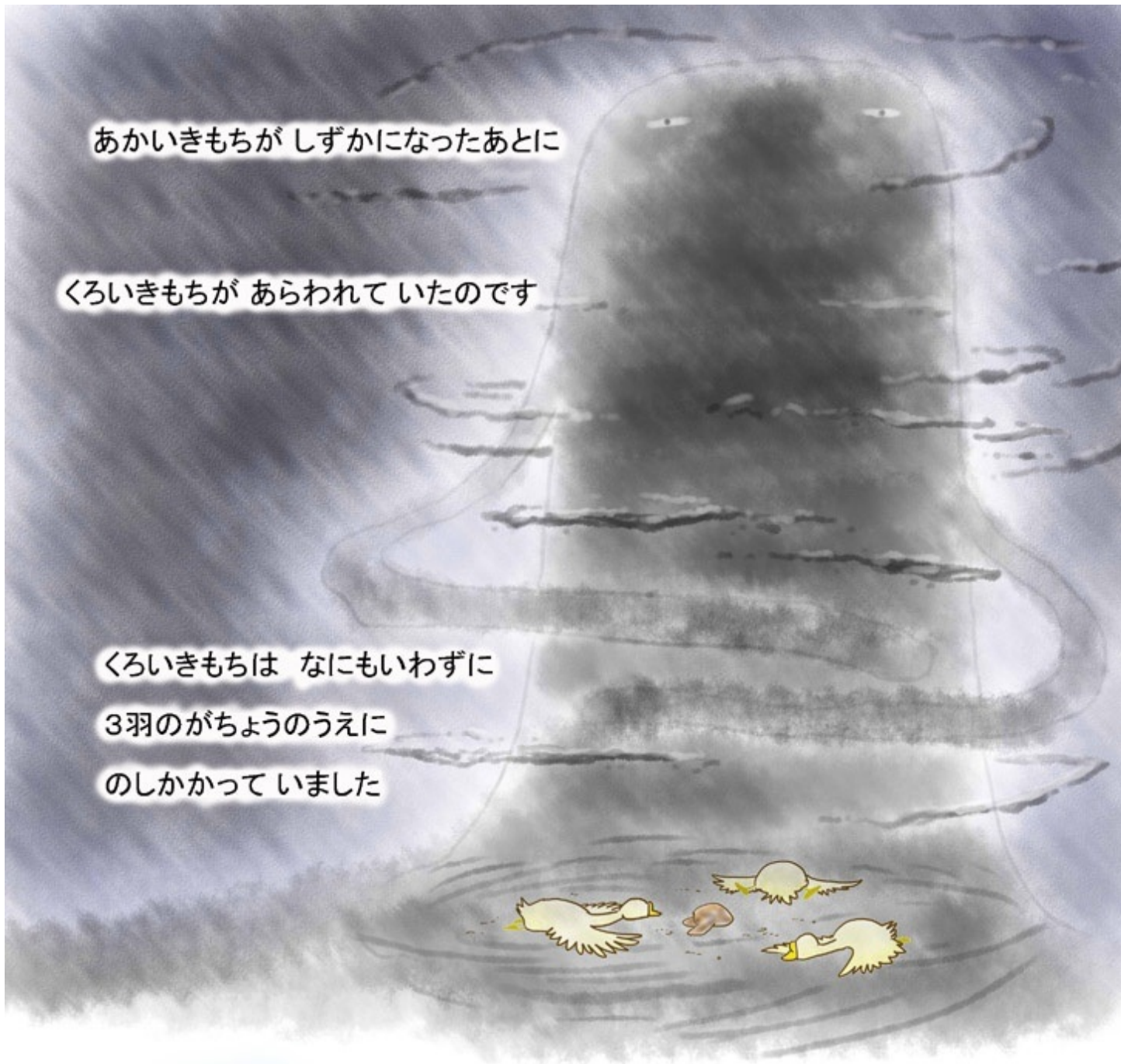
あかいきもちがしずかになったあとに

くろいきもちがあらわれていたのです

くろいきもちは何にもいわずに

3羽のがちょうのうえに

のしかかっていた



そのせいでがちょうたちは



家にかえりたいというきもちも

ここから逃げたいというきもちも

なにか楽しいことをしたいきもちもすっかりうしなってしまいました

でも やがて3羽のうちの 1羽が泣きはじめました  
おなかがすいたよう…

こまったね…

なにもする気が おきないけど  
おなかはずくよう…

や〜め〜

コレでもたべる？

いいものあるよ

1羽のガチョウが おなかの中から  
スープ鍋を とりだしました

それは 魔女のスープ鍋でした  
いくら たべてもなくなるない 魔法の  
コーンスープが 入っているのです

おいしい♪

おいしい♪



魔女のばあさん  
性格はわるいけど  
コーンスープは  
世界一♪



くろいきもちのなかにも  
おなかがいっぱいになると  
3羽はしあわせなきもちになりました

くろいきもちはなにがおきているのか  
よく見ようとかがみこんできました



すると鍋が魔女の声で  
ささやきました

「鍋にいれろ」

「鍋にいれろ」



3羽のがちょうは りょうがわ から

くろいきもちの てを はらいました!

くろいきもちは よろめいて

あっというまに



鍋の中に すいこまれて

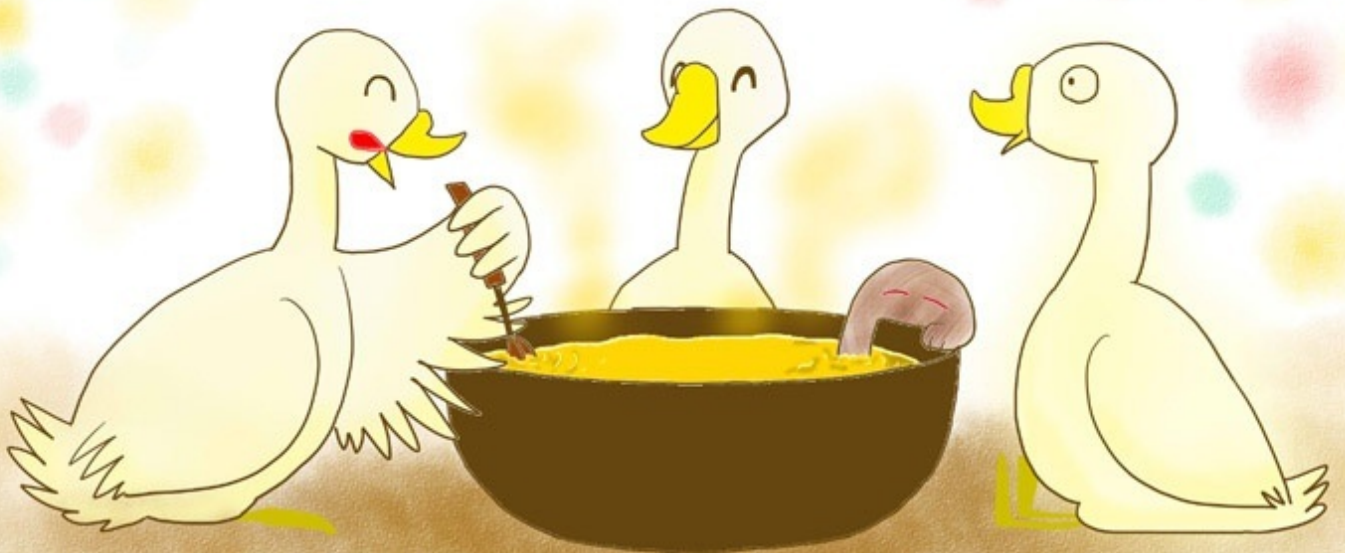
金色のコーンスープになってしまいました

そうすると



あんがい おいしそうだったので

3羽は そのコーンスープを ペろりとたいらげてしまいました



そのころ 魔女は イライラしながら まっていました

あいつら どこまでいったんだ！ つぎの お客さんのが  
とれないじゃないか！



魔女が イライラと  
表に出てみると

おーい！

おーい！

魔女のばあさーん！



すっかり太って山のように おおきくなった  
3羽のがちょうが かえってきました



3羽は 帰るとちゅうも 捨てられたきもちにであって  
みんな スープにまぜて たべてしまったのです



それから魔女は ひとのきもちを  
吸い取る仕事はやめました



3羽のがちょうは ダイエットをさせられて  
だんだん元にもどりました



でも やっぱりおおぐらいなので  
いまでも スキがあれば 魔女の食料品庫を  
ねらっていますけどね

おわり

## おかしな3羽のがちょう

<http://p.booklog.jp/book/38306>

2011年11月6日発行

著者：きりえれいこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kylie-r37/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38306>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/38306>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ